

いきいき農業高校 第20回



北海道中標津農業高等学校

一 地域の概要

見渡す限り視界いっぱいに広がる牧草地と格子状防風林。牧歌的な景観が広がる中標津町は人口約二万人に対し、乳牛飼養頭数は約四万頭。生乳生産量全国二位の「酪農」を基幹産業とする町です。

また、周囲は知床、阿寒湖、摩周湖などの観光地資源にも恵まれ、道東観光の玄関口として、空港を有するとともに商業機能が充実し、都市機能が集積する広域拠点性のある町です。

二 学校の概要

本校は昭和二五年に北海道中標津高等学校計根別分校として開校しました。昭和二七年に北海道中標津計根別高等学校として独立し、昭和三八年に農業科を新設、昭和四二年に現在の北海道中標津農

三 学校教育目標

■学校教育目標

- (一) 生涯にわたり、自ら学ぶ意欲と創造力を育てる
- (二) 他者や自然とのかかわりの中で豊

業高等学校と改称しました。今年度で創立七三周年を迎えた現在は、「生産技術科」と「食品ビジネス科」の一学科、二間口の高等学校として、根室管内では唯一の単置農業高等学校です。本校は、校訓「創造・忍耐・努力」を校訓に掲げ、校風を継承しながら、「地域を教材にして地域を学ぶ」をテーマに農業の教育力を生かした教育を実践し、将来、地域社会で活躍できる実践力を持った人材の育成に努めています。また、農業クラブ活動も盛んに行われており、八つの研究班がそれぞれの専門性を生かしながら、地域に根付いた活動を展開しています。

かな心を育てる

- (一) 健やかで調和のとれた心と体を育てる

- (四) 農の大切さを知り、土に親しむ心を育てる

■重点目標

- (一) 基本的な生活習慣を身に付けることができる生徒を育てる

- (二) 知的好奇心を高めることができる生徒を育てる

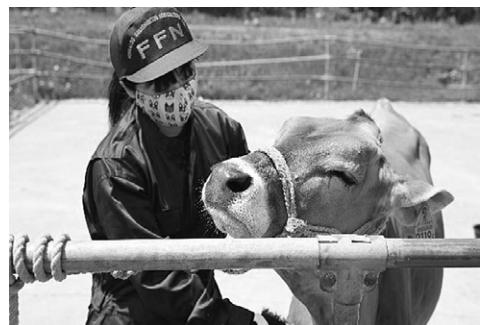
- (三) 豊かな心と他者を思いやる心を持つことができる生徒を育てる

- (四) 個々の進路目標を達成できる生徒を育てる

- (五) 農業クラブ活動や部活動などで活躍できる生徒を育てる

四 特色ある学習内容

中標津農業高校は酪農、園芸について学ぶ生産技術科と食品の加工から流通まで



で学ぶ食

品ビジネス

科の一つの

学科があり、

現在、全校

生徒は一

八名です。

根室管内で

唯一農業を

学べる学科

であり、地域との連携を活かし、酪農、園芸、食品のスペシャリストになるための基礎を学ぶことができます。

関わり取組んでいます。この活動は、今年で一八年目を迎え、児童生徒の年齢・学年の理解度に応じて作物の栽培や畜産物の飼養管理、生産から食品加工、流通・販売に至る六次産業化や農業生物との関わりの中で「生命の大切さ」について学べる体験プログラムを実践しています。

活動計画の段階から運営、児童生徒への食育講座までを生徒が主体的に行い、普段、「教わる側」の生徒が「教える側」

として児童生徒を指導することによって生徒の資質向上につながる

とともに食育

学校の卒業生

が本校に入学するといった人材の循環も確立されつつあります。今後も関係機関



(一) 地域密着型の食農教育

【計根別食育学校】の取組

本校では、「計根別幼稚園」や義務教育学校「計根別学園」の児童生徒を対象に農場を活用した食農教育「計根別食育学校」を通した地域連携を全クラブ員が

と連携をし、地域に開かれた食育活動を展開していきます。

(I) 生産技術科におけるJ-GAP 家畜・畜産物(乳用牛・生乳) 認証取得

本校では農産物に対する安全性や環境保全を担保する国際認証の取得について平成三〇年度からJ-GAP家畜・畜産物(乳用牛・生乳)の認証取得に向けて、

授業内で生徒が主体的に取り組んできました。基準書に記載されている管理点を本校の農場管理と照らし合わせ、農場記録や情報共有などの整備やマニュアル化を行いました。また、QRコードを読み取ると、搾乳方法などの作業手順を動画で確認できる手法を考案するなど、すべての作業工程を「見える化」させました。

これらの準備を経て、令和元年J-GAP認証を取得しました。生徒同士が考え



本校では全国初の試みとして、令和二年度にJ-GAP更新認定を取得し、現在はGAPの地域普及に向けた活動を取組んでいます。

(II) 食品ビジネス科における 地域資源の活用

本校では、肉・乳・農産加工の三つの加工部門に分かれ、製造実習や研究活動

協力し合いながら準備を進める中

で、生産技術の習得に加えて、経営感覚を兼ね備えた人材として必要な資質・

能力の定着につながっています。高等学

校ではエゾシカを地域資源として活用す



ます。

地域課題である生乳の生産過剰による廃棄や給食等で

を行っています。肉加工研究班では、工

ゾシカの地域資源化について研究をしています。現在、道東を中心としたエゾシカの農業や自然環境への被害が深刻化していることに着目。そこで、エゾシカの「まる」と活用」をテーマに、エゾシカ

の肉を使った鹿肉ジャーキーや皮革を加工したキーホルダーなどの革製品、エゾシカから抽出した油を使用したロウソクなど、エゾシカを地域資源として活用する研究に取組んでいます。乳加工研究班

は、生乳の消費拡大を目指した研

究をしてい

も多くの生乳が破棄されているところ、和食に生乳やホエーツンパク質を使用した「乳和食」に着目。家庭で



現在、栽培したコムギを活用し、地元企業「万両屋」と連携しながら新製品開発に挑戦しています。地域の課題を資源として活用することで地域活性化につながる活動に発展しています。

(四) ‘ふれんど納税返礼品への製品提供



平成二十九年度より中標津町役場と連携し、中標津町の魅力発信及び産業振興・

ています。本校生徒がまじころ込めて製造した加工品の詰め合わせを美術部が作成したオリジナルパッケージで包装して提供しています。寄付をいただいた方から「美味しいいただきました」との温かいお手紙をいただく等、生徒達の励みになっています。この活動です。

(五) 地域の公共施設での花壇造成

観光振興による地域活性化を図ることを目的に、本校製品の中標津町のふるさと納税返礼品としての提供を行つて、本校園場でコムギ栽培に着手しています。

学校教育活動の一環として、地域の農業協同組合や社会福祉協議会と連携した花壇造成を行っています。生徒達が播種から管理作業まで行い、まじころ込めて栽培した花壇花を職員の方々と定植しました。この活動は、園芸実習を通して、日々頑張りでいる技術を發揮する場となるとともに、本校生徒達が栽培した花卉で地域を彩り、町民に喜んでもらえるよう社会貢献を行う機会となっています。

地域の子どもたちに、牛の一生や業用ドローン技術に牛徒達は、緊張しながらも、興味津々で楽しみながら講習に取組みました。



(六) 酪農教育ファームの取組

本校は、酪農教育ファーム認証農場としての認証を受け、地域の子供たちに中標津の基幹産業である酪農や食、命の大切さを学んでもらう教育活動を行っています。



(七) 地元企業によるデローン講習会

地元企業の協力をいただき、農業用ドローンの操作を体験する講習会を行いました。講習会では、ドローンー〇トを用いた草地面積の測定など初めて触れる農

(八) 町内ミニユーティラジオ局と

連携した情報発信



ティを務めるラジオ番組「H-e—o」、

中農Radio」を放送しています。町

民に楽しんでもらえるラジオ番組にした

いと番組構成も生徒が考え、主体的に放

送を行っています。番組では、生徒の活

躍やコンテストの成果報告の他、本校生

徒だけではなく、各研究班と関わりの深

い地域の方々をゲストに招き、「中農と

地域が発信するラジオ番組」として、地

域のリスナーの方々からも好評をいただ

いています。



ラジオ番組を通して生徒の持つ熱い想いが地域へ発信され、活動への自信と自覚に繋がる活動などっています。

(九) 地域を支える人材を図指す 委託企業実習の取組

本校では、一年次と二年次に地元企業において委託企業実習を行っています。

卒業生の中には、委託実習先が就職先となって、地元を支える人材として活躍している生徒も多くいます。

一度の委託企業実習の体験の機会を通して、生徒達の進路意識の形成に繋がる活動となっています。



本校は農業高校でありながら農家子弟の入学者数は全体の一割程度です。専門高校として後継者育成の教育実践は当然のことながら、非農家の生徒に対しても農業学習を通して地域農業や地域社会の発展に貢献する人材を育成していくことが求められます。

そのため、「地域を教材にして地域を学ぶ」をテーマにGAPを通した系統的・体系的な知識の獲得や地域の多様な資源を活用したプロジェクト活動を推進し、産業人としての力を身につけていく必要があると考えます。今後も様々な学習活動の実践を通して、生徒にとって効果的な農業学習を探求し、新たな地域を創造できる人材育成を図っていきたいと考えています。

■執筆・写真提供は、農場長の小山大貴
教諭に担当いただきました。

五 おわりに